

藝大フィルハーモニア管弦楽団 定期演奏会

レスピーギ：

Ottorino Respighi [1879-1936]：

リュートのための古風な舞曲とアリア 第3組曲
Suite No.3 from “Ancient Airs and Dances”

夕暮れ 独唱：梶川なるみ
Il Tramonto Soprano: KAJIKAWA Narumi



指揮：現田茂夫
Conductor: GENDA Shigeo

ラフマニノフ：

Sergei Rachmaninov [1873-1943]：

交響曲第2番 ホ短調 op.27
Symphony No.2 in e minor op.27



ソプラノ独唱：梶川なるみ
Soprano: KAJIKAWA Narumi

2025. 4. 24 木

19:00 開演 (18:15 開場)

東京藝術大学奏楽堂 [大学構内]
全席指定 4,000 円

※就学前のお子様の同伴・入場はできませんので、ご了承ください。
※スケジュール・曲目・出演者等は都合により変更となる場合がありますので、
ご了承ください。
※車椅子をご利用のお客様は、ヴォートル・チケットセンター
TEL: 03-5355-1280(平日10時～18時)までお問い合わせください。

[お問い合わせ]

◇東京藝術大学演奏芸術センター TEL:050-5525-2300
◇東京藝術大学ウェブサイト <https://www.geidai.ac.jp>

[チケットお取り扱い] 2月26日(水) 販売開始

- ヴォートル・チケットセンター
<https://www.ticket.votre.co.jp/> TEL:03-5355-1280 平日 10:00～18:00
- チケットぴあ <https://t.pia.jp/> 《Pコード：292-229》
- 東京文化会館チケットサービス
<https://www.t-bunka.jp/tickets/>
TEL:03-5685-0650 / 10:00～18:00 休館日を除く
店頭販売:10:00～19:00 休館日を除く
- イープラス(e+) <https://eplus.jp/>
- 東京芸術大学生協同組合(店頭販売のみ)
TEL:03-3828-5669
営業時間はウェブサイト(<https://www.univcoop.jp/geidai/>)でご確認ください。



| 主催 |

東京藝術大学音楽学部・東京藝術大学演奏芸術センター

旋律の名手たちが追求した管弦楽での作曲表現

今回の藝大フィルハーモニア管弦楽団定期演奏会でお届けするのは、20世紀前半に活躍したレスピーギとラフマニノフの作品です。20世紀前半という時代は、無調や十二音技法、セリーなど、新しい創作・音響上の実験が次々と試みられたことで有名です。しかし、この二人はそうした実験を知りながらも自らの使命を別のところにあると信じ、伝統的な歌心を大切に、聴く者の心を揺さぶる旋律を紡ぎ出し続けました。

レスピーギは今回お聴きいただく《夕暮れ》を含め、合唱・独唱を問わず声楽曲を生涯にわたって作り続けました。今日では上演機会にあまり恵まれていないものの、オペラも彼の主たる活動領域の一つでした。ラフマニノフもまた、ロシア語歌曲の黄金時代を代表する存在として知られ、三作のオペラを残しています。まさに、二人とも旋律の名手だったのです。

さらに、管弦楽の色彩感についても二人には興味深い共通点があります。イタリア出身のレスピーギと、ロシア出身のラフマニノフ。温暖な南欧と寒冷な北国という、遠く離れた土地で生まれた二人の作曲家のように思われますが、実は二人の音楽の色彩感の一部は、ロシアという同じ国で育まれました。ラフマニノフはモスクワ音楽院でアレンスキーに学び、レスピーギは1902年にロシア帝室劇場の弦楽器奏者として招聘された際に、短期間ではありましたがリムスキー＝コルサコフの薫陶を受けたことで知られています。土地は違えど、二人の作品を生み出した源は存外に近いところにあるのかもしれませんが。こうした点から見ると、1929年に原曲作曲者ラフマニノフの許可のもと、レスピーギがピアノ曲《音の絵》の管弦楽編曲を手がけたことも、偶然の出来事ではないと感じられるはずです。

イタリアとロシアで育まれた豊かな声楽の伝統。その精神を受け継ぎながら、管弦楽を通じて新たな表現を追求した二人の作曲家の世界を、どうぞお楽しみください。
(山本明尚・音楽学)



指揮：現田茂夫 Conductor: GENDA Shigeo

1979年東京音楽大学指揮専攻に入学。汐澤安彦、三石精一両氏に師事。1982年東京芸術大学指揮専攻に入学。佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。ドレスデンフィル、スロヴァキアフィル、プラハ交響楽団、サンレモ交響楽団等に客演し、コンサート、オペラ両面で活動を続ける。1994年のプラハの春での佐藤しのぶコンサートは全ヨーロッパで放映された。神奈川フィルハーモニー管弦楽団名誉指揮者。他、国内外の主要オーケストラも指揮し好評を得ている。オペラ指揮者としての経験は豊かで二期会21、関西二期会、錦織健プロデュースオペラ、佐藤しのぶ「夕鶴」公演等、歌手からの信頼も厚い。NHKのFM「シンフォニー・コンサート」のパーソナリティを長年務める等バラエティに富んだ活動を行なっている。2023年からは東京芸術大学指揮科客員教授として後進の指導にもあたっている。



ソプラノ独唱：梶川なるみ Soprano: KAJIKAWA Narumi

埼玉県北本市出身。東京芸術大学声楽科を経て、現在同大学大学院音楽研究科声楽専攻修士課程に在籍。学部卒業時に同声会賞、及び佐々木成子賞を受賞。2021年に第67回藝大オペラ定期公演《魔笛》にて童子役でオペラ公演デビュー。成績優秀者として2024年度東京芸術大学奏楽堂モーニング・コンサートに出演し、指揮・現田茂夫氏率いる藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演、レスピーギ作曲《夕暮れ》を演奏する。第72回全日本学生音楽コンクール全国大会第2位。声楽家団体 Celeste のメンバーとして地元埼玉県でも積極的に演奏活動を行う。これまでに声楽を山吉理恵子、永井和子、櫻田亮の各氏に師事。

藝大フィルハーモニア管弦楽団

The Geidai Philharmonia Orchestra, Tokyo



藝大フィルハーモニア管弦楽団は東京芸術大学に所属するプロフェッショナル・オーケストラ。定期演奏会や「モーニング・コンサート」などを行うほか、指揮科学生との演奏会・試験・演習、東京藝大ジュニア・アカデミーとの共演など、学生の演奏経験の拡充にも資している。学外でも、近年では新国立劇場、彩の国さいたま芸術劇場、また長崎県、新潟県、秋田県での公演が好評を博したほか、海外では2017年6月のチリでの4公演（日本・チリ修好120周年記念）に続き、2023年12月にはアルゼンチンのコロロン劇場（Teatro Colón）での公演で満員の聴衆を魅了した。（公社）日本オーケストラ連盟準会員。

東京藝術大学奏楽堂 [大学構内]

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

交通のご案内

- JR上野駅（公園口）
鶯谷駅（南口）
東京メトロ千代田線根津駅より
徒歩10分
- 京成線京成上野駅
東京メトロ日比谷線
銀座線上野駅より
徒歩15分

※駐車場はございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

